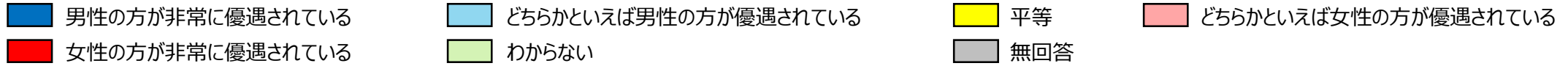


1. 男女共同参画に関する意識について（8分野における男女の地位の平等意識）

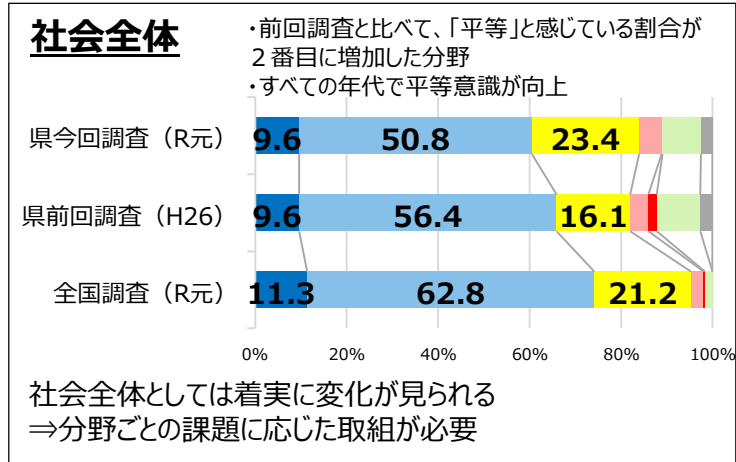
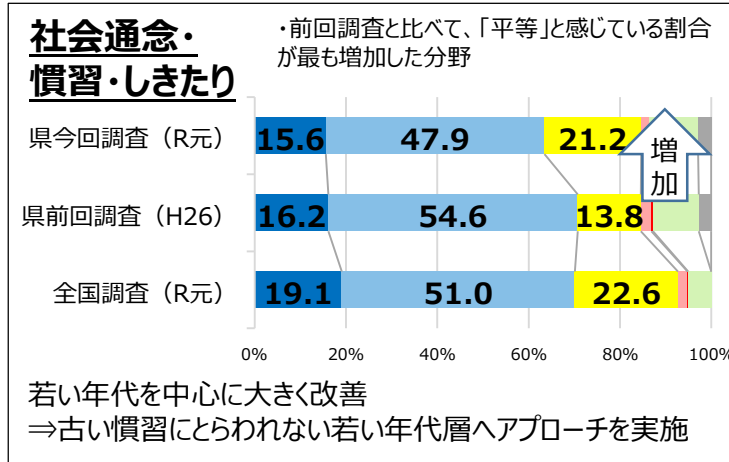
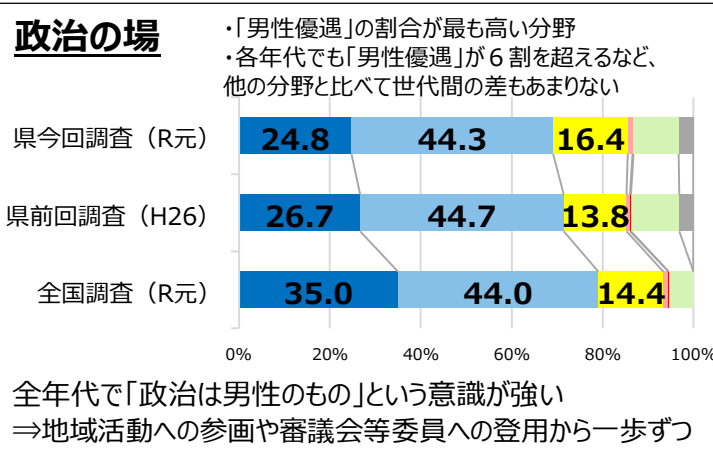
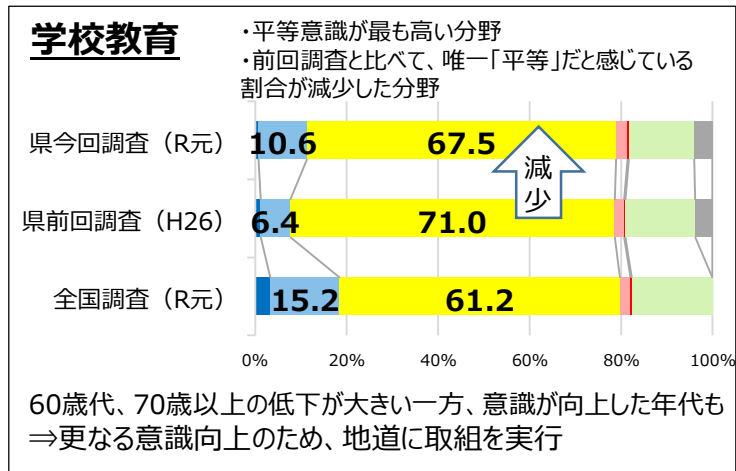
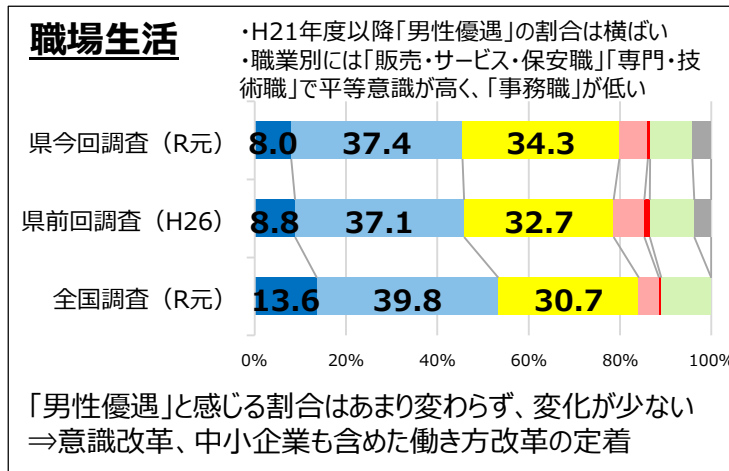
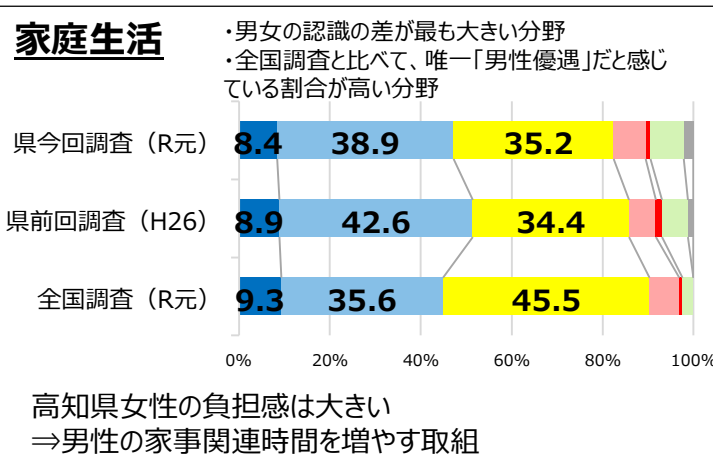
○分野ごとの男女共同参画に関する意識については、おおむね向上しているが、まだ偏りがあり、課題が残されている。

- ・「男性優遇」と回答した割合が最も多い → **5分野** 「家庭生活」「職場生活」「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」
 - ・「平等」と回答した割合が最も多い → **3分野** 「学校教育」「地域活動の場」「法律や制度の上」
 - ・平等意識が向上 → **7分野（「学校教育」以外）** 特に「社会通念・慣習・しきたり」（+7.4%）と「社会全体」（+7.3%）で向上
- 前回調査と変わらず
- 「**学校教育**」は平等意識がやや低下したものの、8分野中、最も平等意識が高い

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。（抜粋）



※「男性優遇」…「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を足したものの。



2. 家庭生活について（家庭における男女の役割分担の理想と現実、理想の実現に必要なこと）

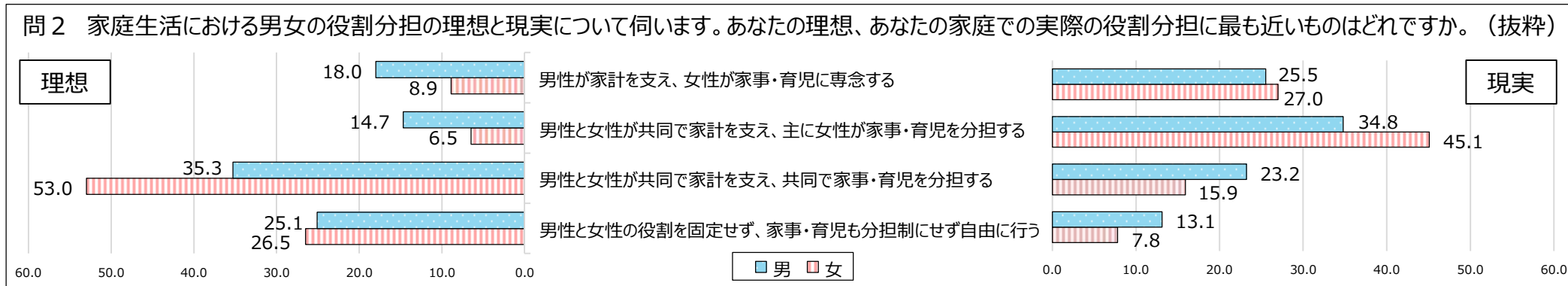
○傾向は変わらず、家事・育児等の分担については理想と現実に隔たりがみられる。

・家庭における男女の役割分担の理想と現実

<理想 1位> 45.2%「男女が共同で家計を支え、**共同で家事・育児を分担**」（男女とも1位だが、男性35.3% 女性**53.0%**と差）

<現実 1位> 40.9%「男女が共同で家計を支え、**主に女性が家事・育児を分担**」（男女とも1位だが、男性34.8% 女性**45.1%**と差）

・理想の実現に向けては、**男女ともにコミュニケーションを重視**しながらも、男性は「仕事が忙しいため」、女性は「男性自身の抵抗感があるため」理想的な役割分担ができないと考える傾向がある。



⇒男性の働き方・暮らし方を見直し、実際の行動につなげることが必要。性別の意識差を踏まえた啓発・取組の検討。

新規調査項目

3. 男女がともに働きやすい職場づくりについて（ワーク・ライフ・バランスの理想と現実、理想の実現に必要なこと）

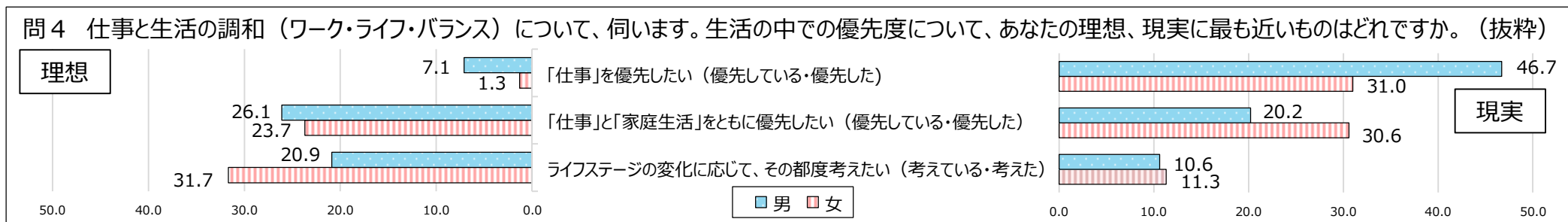
○仕事と家庭生活の両立や、ライフステージの変化に応じた柔軟な働き方を求めているが、仕事を優先しなければならない現実と隔たりがある。

・ワーク・ライフ・バランスの理想と現実

<理想> 1位26.9%「ライフステージの変化に応じて、その都度考えたい」（男性2位：**20.9%** 女性1位：**31.7%**）

<現実> 1位37.9%「仕事を優先している（優先した）」（全国+12.0%）（男女とも1位だが、男性**46.7%** 女性**31.0%**と差）

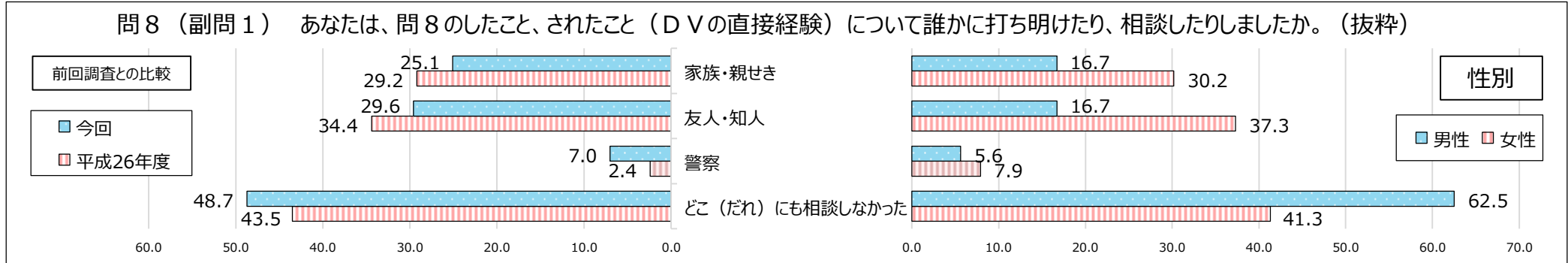
・理想の実現に向けては、**多様な働き方が選択できる環境整備、職場の理解**が求められている



⇒制度の充実だけでなく、固定的な性別役割分担意識の解消を中心とした意識改革も必要。

4. DV/セクシュアル・ハラスメントについて（DV行為の認識、DV経験の有無・頻度、相談相手、セクハラ行為の認識）

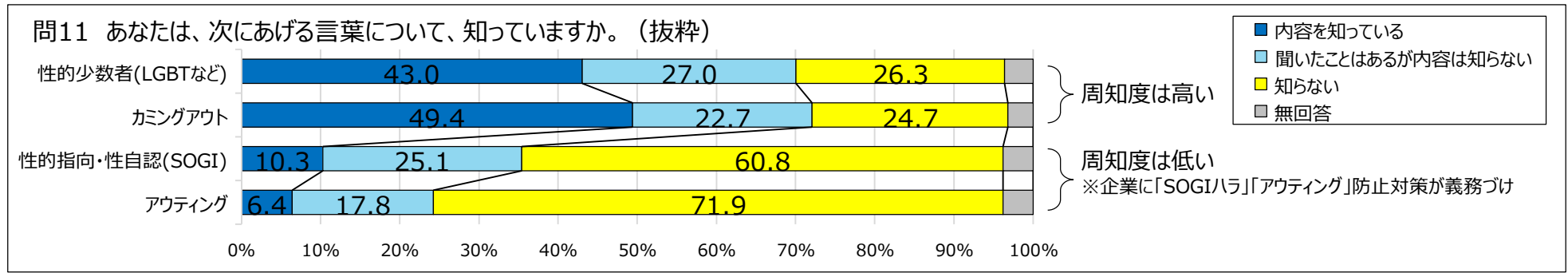
- DV等に対する認識は向上している。DVの相談先として身近な方を選択する、男性は女性に比べて相談しないといった傾向がある。
- ・DV行為に対する認識が向上（行為の例示に対し、「どんな場合も暴力に当たると思う」と回答した割合が増加） → **すべての項目**
- ・セクハラ行為に対する認識が向上（行為の例示に対し、「セクハラだと思う」と回答した割合が増加） → **すべての項目**
- ・DV経験の有無はほぼ変わらず → **約2割**が直接経験 いずれの行為も「した」より「された」割合が高く、**加害者と被害者の間に認識の違い**
- ・DV被害を「どこ（だれ）にも相談しなかった」割合48.7% → **微増**（+5.2%）相談先としては「家族・親戚」や「友人・知人」が多い



⇒相談窓口の周知や早期教育、被害者支援などについて更なる強化が必要。

5. 男女共同参画の推進について（関連用語等の周知度、男女共同参画社会実現のために力をいれるべきこと）

- 男女共同参画に関する意識の醸成のため、引き続き啓発が必要。
- ・今回新たに追加した性的指向・性自認に関する用語のうち、「性的指向・性自認（SOGI）」「アウティング」については十分に知られていない
- ・今まで以上に男女共同参画社会を実現するために力をいれていくべきこと
 - <1位> 36.7%「労働時間を短縮するなど、性別にとらわれず家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」
 - <2位> 32.9%「性別やジェンダーに基づくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」



⇒働き方の見直しとともに、性別やジェンダーに基づくさまざまな偏見や固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発が必要。